



こーひーぶれいく

## 猫の秘密結社と AI

角山 雄一

Tsunoyama Yuichi

犬派の私が猫の世界に足を踏み入れたのは今から7年前、高知での出会いがきっかけだった。清流で名高い仁淀川沿いを車で快調に流していた時のこと、子猫が道の真ん中に座り込んでいる。急停車して駆け寄ると、目やにと涙で瞼が開かない幼い三毛猫が首を上げて必死に鳴き続けている。すぐさま抱きかかえて母猫がいなか周囲の集落を尋ねて回ったが、皆知らない子だと言う。仕方がない。その子を京都に連れ帰り保護することにした。さて、そのわずか5日後のこと。今度は職場の事務員が黒猫を拾ったと連絡をよこしてきた。烏あたりが餌にし損ねて落としていったのだろうか。赤ちゃん猫が駐車場の冷たいコンクリの上をはいずりながら鳴いていると言う。周囲に親猫の気配も無く、全身ノミだらけで瀕死の状態だったが、この職員、拾ったはいが動物が大の苦手。仕方がない。この子も保護することにした。

三毛の方は数か月のうちに見事な美人猫へと成長した。猫は飼い主に忍び寄る魔を追い払うのだとか。晩ともなれば私に寄り添い枕元で眠る番猫? になった。黒猫は私を親と思っているようで、人間で言えばおじ様の年齢になった現在でも膝上に飛び乗っては子猫のように思い切り甘えてくれる。しばらくして、残念ながら三毛は早世した。しかし入れ替わるように今度は白黒模様のスマートな洋猫君が家族の一員となった。また別の出会いもあって、今は三毛とシャムの素敵なお姉様2匹も同居している。ふと気づけば、犬派の私が猫たちに囲まれて癒しをもらっている。

さて、ネットの噂では、猫を1匹でも飼うとその途端別の猫を飼うことになるというジンクスのよ



「猫の秘密結社が飼い猫を亡くした人間に子猫を紹介」の生成 AI イラスト (Created with Copilot)

うなものがあるらしい。既に飼っているのに、庭に迷い込んだ野良が家に上がり込み、そのまま住み着いた。飼い猫が亡くなった直後に偶然箱に入った子猫を拾った等。枚挙にいとまがない。更に噂の真相を調べ進めると、とある組織の存在に辿りつく。どこで見張っているのやら、秘密結社のような組織の猫たちが下僕となり得る人間を選別し、適任者を見つけるや身寄りのない子猫や野良を派遣しているのだとか。猫たちは独自の SNS “ねこねこネットワーク” (NNN) を有していて、秘密結社はこれを介して連絡を取り合っているとのこと。自身の体験に照らせば疑いようもない事実!? 猫たちの方が人間を選んでいるのだとしたら、これはなかなか愉快的な世界観ではないだろうか。

・・・さて、ここで皆様に問題です。前記の文章、ChatGPT4.0 を利用して作文しました。どこからどこまでを AI が執筆しているのか見分けがつかますか? 猫様たちに癒されながら AI について思いを巡らす今日この頃です。ちなみに、イラストは AI が生成したものです。

また、猫との関係は事実です。

(京都大学環境安全保健機構放射線管理部門)